

グローバルに成長するIPMU

IPMU 機構長

村山 斉 むらやま・ひとし

IPMUはとてもグローバルに成長しています。この秋には専任のメンバーのうち、半数以上が外国人になります。これは日本の研究機関では史上初めてのことだと思います。IPMUは世界中でかなり知られるようになってきました。外国の研究者が「イプムー」について質問しに来ると、何かすぐったい感じがします。もしかするとこの発音が定着するかもしれません。

グローバルと言えば、この号の表紙の主任研究員は非常にグローバルな考えを持っている人です。スタブロス・カサネバスはパリで働くギリシャ人で、ヨーロッパの17ヶ国の省庁にまたがるアスペラ (ASPERA) という連絡網をまとめている人です。そして彼の夢はもっとグローバルな実験計画です。世界に散らばった大きな実験装置を作りたいというのです。日本のスーパーカミオカンデ実験は地下に5万トンの水をたたえるタンクで大成功を収めました。更に大きな次の実験装置を作る相談は既に始まっています。しかしそんなに大きな実験装置を置く場所や資金は、なかなか簡単には見つかりません。実現には多くの国々の協力が必要です。スタブロスは実験装置自身もいくつかの部分に分けて、例えばヨーロッパ、日本、アメリカの一つずつ作ることを考えています。こうした今までの殻を破る前向きな考え方はまさに世界の科学の発展に必要なものです。彼のような人物がIPMUのメンバーにいて大変幸いだと思っています。

日本の宇宙飛行士、土井隆雄さんのインタビューは貴重な経験でした。土井さんは1.3トンの人工衛星を自分の手で捕まえ、操ったことで有名です。子供のときに星を見るのが好きだったことが宇宙飛行士への道

のきっかけだったそうです。実は宇宙飛行士としての厳しい訓練の合間に天体物理学の博士号を取られました。暗黒物質や暗黒エネルギーについて大変興味を持たれていて、インタビューをするのは私だったはずなのに何度か立場が逆転してしまいました。

IPMUのサイエンスはグローバルですが、またローカルでもあります。最近「宇宙に終わりはあるか?」という題で一般公開講座を企画しましたが、あまりに参加希望者が多くて二度同じ講演をすることになったほどです。私たちの研究で何が分かって来たのか、今どんな問題に取り組んでいるのか、一般の方に伝えていくのは研究者のとても大事なつとめだと思っています。このIPMUニュースもその一環として楽しんでいただければ幸いです。

Director's
Corner